



TITLE:

物性小委員会議事録

AUTHOR(S):

CITATION:

物性小委員会議事録. 物性研究 1965, 3(4): 311-311

ISSUE DATE:

1965-01-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/85639>

RIGHT:

資料

物性小委員会議事録

- 1 日 時 1964年 7月 12日
- 2 会 場 東京大学理学部会議室
- 3 出席者 宮原，三宅哲，芳田，中山，碓井，三宅静雄（物性研所長代理），中島，小野，伊藤，飯田。
- 4 報告事項
 - a 100人委員に対する物性研究所に関するアンケートの結果が報告された。（詳細はすでに発表されている）
 - b 体制小委員会の報告と7月13～15日、名古屋大学で共同利用研究協議会についてのシンポジウムを開くことが報告された。
 - c 物性研人事選考協議会委員の選挙結果が報告された。
宮原，伊藤（実験），永宮，久保（理論），小谷（学識）。
 - d 共同利用施設専門委員の結果が報告された。
松原研究室の大学院学生，徳永氏が選挙され、推薦されたことについて物性研所長の解釈に問題があることも報告された。
 - e 各大学を緊急に拡充する案が学術会議総会で色々な意見が出て通っていないことが報告された。秋の総会を目標に検討されるはずである。
 - f 共同利用研究所に関する調査の報告があつた。
 - g 臨時行政調査会が発足し科学技術の推進について意見をまとめつつあること、科学技術庁サン下だけでなく大学および附置研究所の研究も調整の対象にしていることが報告された。長期委員会ではCNRS 的なものを学術会議のサン下に考え、政策的なものは科学技術庁と考えている。
- 5 討 議
 - a 共同研究協議会，総合研究機構が長時間討議された。
物性研側委員からは疑義が主として述べられた。
 - b 物性研の将来計画
要望は今のところ多くないと考えている。差し当り客員部門2を要求するつもりである。之に関連して個性を重んじた単能研究所の必要性が主張された。
- 6 1968年統計力学の国際会議を開催したいという考えが提出された。